

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4673000156号
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館
訪問調査日	平成 22 年 2 月 26 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 20 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4673000156号		
法人名	医療法人 佑志会		
事業所名	グループホーム 花々館		
所在地	鹿児島県 日置市 伊集院町 徳重 190番2 電話 099-273-8787		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年2月26日	評価確定日	平成22年3月20日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤16人	非常勤3人 常勤換算17.1人

(2) 建物概要

建物構造	軽量 鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(日額)	400 円	
敷 金	有 (円)		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 20,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	守屋病院	藤井歯科
---------	------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、妙円寺詣りの徳重神社近くの民家に溶け込むようにして建てられている。1・2階の2ユニットのホームであるが、それぞれの特徴を活かし、利用者も職員もひとつの家として交流しながら生活している。また、各ユニットの主任と管理者がよく連携を取り合っており、ホームの運営をスムーズに行っている。利用者の支援については、パーソンセンタードが行き届いており、ケアの質を向上させるための4つの委員会を持っている。全職員が、そのいずれかの専門委員として3年交代で所属して、検討や実施を進めているのが特徴的である。母体が医療機関であり、医療面での支援も万全の体制である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流を通じた向上については、薩摩半島地区認知症グループホーム連絡協議会を通じて、研修会や相互交流に意欲的に取り組み、また、個々の職員交流も推奨し、改善している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価に取り組む事で、評価の意義をふまえて、ケアの再確認の機会としている。課題を話し合い改善に取り組み、職員の意識向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催しており、参加者より、放火・コンセントのトラッキング現象などの災害原因についての点検励行や、行事参加への呼びかけなど、意見やアドバイスを聞き、改善や具体的な取り組みをしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は面会時に家族等と話し合う機会を作り、意見や要望が出しやすい雰囲気作り心がけており、種々の意見が出されている。出された意見や要望等は職員で話し合っており運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事や夏祭り・地域婦人会の「生き生きサロン」に参加したり、自治会の掃除や運動会に参加している。中・高校生の体験学習やボランティアの受け入れなど、交流は幅広く行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心の声を大切に、自分らしさを保ちながら、自由に、その地域の方々とともに喜びのある暮らしを支援」との地域密着型サービスとしての理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をパンフレットや重要事項説明書に掲載し、フロアや各居室にも掲示している。職員は理念について話し合い、確認と共有に努め日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事や夏祭り・地域婦人会の「生き生きサロン」に参加したり、自治会の掃除や運動会に参加している。中・高生の体験学習やボランティアの受け入れなど交流は幅広く行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価に取り組むことで、評価の意義をふまえて、ケアの発見と再確認の機会としている。課題を話し合い改善に取り組み、職員の意識向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、参加者より、放火・コンセントのトラッキング現象などの火災原因についての点検励行や行事参加への呼びかけなどの意見やアドバイスを聞き、改善や具体的な取り組みをしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	花々館便りを持参し、事業所としての連携を図っている。市のグループホーム連絡会の立ち上げに協力を依頼するなどして、協力体制を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	花々館便りや月次報告を家族へ送っている。家族会や来訪時に心身の状況や暮らしぶり・職員異動・金銭管理等を報告している。配慮の行き届いた報告に家族等は安心している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会時に家族等と話す機会を作り、意見や要望等が出しやすい雰囲気作り心がけており、貴重な意見が出されている。出された意見や要望等は、職員で話し合いを行い運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が継続できるケアを心がけているが、やむを得ない異動の場合には、1ヶ月間を新・旧の引継ぎ期間として、細やかな配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や母体医療機関の定期的な研修に参加している。内部研修は課題を設けて勉強会をしている。資格取得希望者に支援を行い、職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区グループホーム協議会の役員となっており、研修会や相互交流に意欲的に取り組んでいる。個々の職員交流を推奨し、親睦を深めている。市のグループホーム連絡会の立ち上げにも尽力している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には病院や自宅を訪問し、本人や家族と懇談したり、見学に来てもらいお茶を一緒に飲んだりして、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりの、読書・家事・炊事・新聞読み・陶芸などの得意とする事や昔話・行事のしきたりなど話してもらう中で、新しい発見や感謝の言葉に感動しながら日々を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のアセスメントに従い関わる中で、状況や言動・表情で新しい発見をしている。相談しやすい援助者を配置しており、申し送り帳に記録し、職員の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の心身の状況や関係者の意見をもとにカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行っている。入居者の状態変化の折は、その都度カンファレンスや評価を行い、退院後などの見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っており、利用者の健康管理に努めている。本人・家族等の要望に応じて、自宅訪問や理・美容院の送迎、病院受診等、必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医で受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制があり、重度化や終末期に対して方向性を統一した指針が作られて、職員も共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳に対する関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな時間の流れは決められているが、その人の心身の状態に留意しながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や嗜好を取り入れた献立や食器類、楽しい行事食を工夫し、入居者と職員と一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝バイタルチェックをして健康状態を把握し、一人ひとりの希望する入浴支援に取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・家事手伝い・詩吟・歌・読書・利用者同士の声かけ・新聞紙のアート等、一人ひとりの得意な事、好きな事に力を発揮している。外食や生き生きサロン・散歩等、外出に心がけて、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出での散歩や神社参拝・買物・リハビリ・庭園での日光浴・ドライブ等に出かけて、外出支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと配慮で、鍵をかけずに自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力のもと、昼・夜間想定防災訓練と毎月防災委員会による訓練を行っており、住民の協力体制もできている。災害時の備蓄は母体医療機関でしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分の摂取量を把握し記録している。身体状況に合わせた食事形態も取り入れている。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもとに献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく温度や湿度、臭いや音に配慮が行き届いている。ホールには季節行事の飾り付けや花が活けられて、家庭的で居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌・ラジオ・寝具・テレビ・家族写真・手作りの防災頭巾等、それぞれ馴染みの物が持ち込まれている。居室入口に個性的な表札とナースコールが設けられて、見当識への配慮もされている。		

※  は、重点項目。